

リスクアセスメント & 作業手順書

工事名称	2024年度 東海北陸自動車道 高山管内維持修繕業務		作成会社名	中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋株
工期	令和6年4月1日 ~ 令和7年3月31日		作成者	鈴木 悠平
作業名称	伸縮装置後打ち材段差除去	作業手順書	作成年月日	令和4年5月31日
使用機械 使用設備 (具体的な名称・ クラスを記す)	連絡車2台、ディスクサンダー、コンクリートカンナ(乾式)、発電機		改正年月日	
使用工具、機器 材料等(具体的な 寸法を記す)	バケツ、水系、スタッフ、マジック、ほうき、塵取り、ブロアー		現場責任者	
保護具	ヘルメット、保護手袋(刃物作業時は耐切削用)、防護メガネ、防塵マスク		協力会社	会社名 -
	自動車運転免許証、振動工具		協力会社責任者	自筆サイン -
免許・資格等 (免)(技)(特)(準特) の区別を記す	作業責任者 1人、作業員 5人、保安員 2人 合計 5名		作業順序 1 現地確認 2 準備作業 3 現地確認 4 後打ち材凹凸部分除去 5 後片付け 6 7 8	
作業人員 (当作業に関わる役 割と人員を全て記 す)				
作業手順 周知会 参加者 サイン (記録)	作業責任者(職長)	周知会実施日		
	(役割を確認してこの作業に関わ る全員が自筆サインする)			

リスクの見積り	重大性			組み合わせ	リスクの評価	優先度又は実施担当者
	○:軽微 休業4日未満	△:重症 休業4日以上	×:極めて重大 死亡・障害を伴う			
可 能 性	○:めったに発生しない (5年に1回程度)	○△	○×	○○	1:極めて小さい	関係者に対策の周知
	△:時々発生する (1年に1回程度)	△△	△×	○△、△○	2:かなり小さい	関係者に対策の指示
	×:かなり発生する (6ヶ月に1回程度)	×△	××	○×、△△、×△	3:中程度	職長が確認
				△×、×△	4:かなり大きい	工事担当責任者が確認
				××	5:極めて大きい	十分に訓練をした対策が必要

リスクレベル 5=十分に訓練をした対策が必要 4=工事担当責任者が確認 3=職長が確認 2=関係者に対策の指示 1=関係者に対策の周知

作業項目	手順	急所	リスクの洗い出し	可能性	重大性	評価点	リスクレベル	ミス・ロス	リスクの除去・低減のための実施すべき事項の特定(防止対策)
(誰が)	主なステップ	作業のポイント	(予想されるミス・ロス)						
現地確認(全員)									
	作業箇所確認	危険ポイントの確認							
	周辺安全確認	構造物の確認							
準備作業(全員)									
	ミーティング	健康状態の確認 免許・資格等の確認							
	車両の点検・準備	車両の始業前点検、 工具の確認							
		健康状態の確認・免許・資格等の確認・光物(チョッキ・脚絆・ヘッドライト等)の充電確認・業務用プレートの確認、入場方法・入場箇所・車両順番・役割分担の確認・車両の始業前点検、工具の確認、積み込み荷の確認(落下・飛散対策)荷締め位置、荷台のネット・シート掛けの確認する。工事車両幕がロープ及び養生テープで確実に固定されていることを確認。 担当者は施工計画段階でNEXCOと打合せした内容を作業員へ周知・報告すること。 車両出入庫の際に、運転手は車両の周囲(上下含む)を指差し、障害物が無い事を確認のうえ、出入庫する。							
現地確認 (責任者、作業員)									
	水系とスタッフを使用し、後打ち材の除去部分をマーキング	ジョイント部分と舗装部分にスタッフを置き、水系で確認する。	計測ミスでガタガタになる	△	○	○△	2		計測しマーキングする
後打ち材の凹凸部分除去 (責任者、作業員)									
	マーキング箇所をディスクサンダー、コンクリートカンナで削る。	手元注意、保護具着用	手を損傷させる 粉塵が目に入る	△	△	△△	3		無理な体勢で作業しない。サンダー使用時は手袋を着用しない 保護メガネ、防塵マスクを着用する
		周辺確認	粉塵で周囲が見えない	×	△	×△	4		ブロアーの使用、作業の一時停止
	削りすぎがないか適度に確認をする	ジョイント部分と舗装部分にスタッフを置き、水系で確認する。	削りすぎでガタガタになる	△	△	△△	3		適度にスタッフ、水系を使用し確認しながら作業する
後片付け (責任者、作業員)									
	清掃	破片、工具等が残っている							工事車両幕を取外した場合は専用のケースに確実に格納し車内に保管する事